学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第五小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者 評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	Α	学校教育目標達成に向け、校長の学校経営方針を全教職員に浸透させるために、1日1枚「校長室だより」を作成・配付(160号)した。また、校長が教職員一人一人と自己評価シート面談を実施し、学校教育目標に即した目標を設定して取り組んだ。 校長の学校経営方針を念頭に置さながら、児童一人一人の実態を把握したうえで、校内分掌組織を活用して具体的な改善策を検討した。改善策実施にあたっては、学年会等を通して共通理解・共通行動の徹底が図られた。	Α	・文章一日一枚発行、面談を重ねることで組織内により緊密な信頼関係が築かれます。組織一体となり、児童一人一人の実態把握に努めていただき、目標達成に向けてのモデルとして継続してください。 ・校長先生の学校経営方針は授業の見方・工夫・改善策の検討等、大変高い教育目標達成への熱い心が感じられます。
	2	学校は、安全・安心 に配慮し、危機管理 体制を整えている。	Α	施設事故等が起こりやすい時期を事前に想定し、事故を未然に防ぐための事故防止年間計画を作成して、教職員間で声がけをするなどの活用をした。 日常点検や定期点検では、児童の視線や動きを想定して実施をした。また、臨時点検では、他校の事故事例から再発防止の視点を学んで実施した。これらの点検により、児童の怪我の原因となる施設設備事故は皆無であった。	A	・事故は油断や慢心などに起因する場合が多いですが、児童の視線や動きを想定することで目的意識が鮮明となり、よ効果があると思われます。他校の事故事例なども含め、情報データを蓄積し、より強固な危機管理体制の構築を願います。 学校運営協議会資料として「事故防止年間計画」がありました。「校長室だより」No.1~No.154まで読ませていただきましたが、たくをみくの多くの事故例がありましたが、五小ではゼロであってほしい。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員 の指導により、基礎 学力を身に付けてい る。	Α	基礎学力を定着させるために、加配教員やあさかスクールサポーター等を活用して、少人数指導や智熟度別指導。個別学習支援を意図的・計画的に実施した。また、ワークや小テストを繰り返し実施することで、計算力及び漢字の定着が図られた。各学習状況調査について数年間分を分析して、課題を抽出して基礎学状況調査について数年間分を分析して、課題を抽出して基礎学力ニール学習を取り入れ、短時間で集中して取り組むことができた。また、学校閉校中には、インターネットを活用して動画を96本	Α	・今後タブレットを使う取り組みに期待します。 学習状況調査を数年間分析され、しつかりと課題を抽出されたことはとても評価いたします。この一連の動きも年度をまたいで継続となるよう期待します。 接案時間が大幅に減少したが、工夫された授業が多く、児童の基礎学力はしっかりと身に付いていると思います。 ・授業時間の確保、労働時間の抑制など、難しい調整があったかと思います。 モジュール学習のメリット、デメリットをまとめて来年度につなげていただければと思います。
	4	学校は、学力向上を めざし、児童生徒の 実態に基づいて授 業改善に努めてい る。	Α	学力・学習状況調査結果を分析し、課題となった「学力の二極化解消」「国語の書く力の育成」に重点を置いて授業改善を実施した。特に、実物教材やICT機器を活用するなどの工夫を図ることで、児童の興味・関心を高めた。また、教育実習のための模範授業をとおして、子供たちの学力向上のために教職員一人一人の授業力及び指導力向上に努めた。また、OJ Tやシンター制度を活用しながら、子供たちの学力向上のための研修を実施した。	Α	・分析された課題の中の「学力の二極化解消」に向けての授業改善に期待します。授業環境の悪化から、児童ー人一人の実態の把握を軸に学級自体の学習意欲が下がるようなことがないよう注意深く進めてください。・伝え合う授業がなされ「先生と児童」「児童と児童」「学校と家庭」で学力向上の効果を上げている。
規律ある態度の育成		児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	А	年度当初に比べ、しっかりとした挨拶ができたり、時間を守って行動できたりするなど規律ある態度を身に付けている児童が学校全体として増えた。各学級では、規律ある態度に関して、児童がよくできた点や成長した点を具体的に認め、学級全体の前で褒めていた。今後も、学校全体として、児童の成長を認め、褒めることを通して、自己肯定感を育てていく。	Α	・自己肯定感だけでなく、友達を認める気持ちを持つことができると良いと思う。 ・児童一人一人が自己肯定感・自己有用感を抱き、他者に対しても良き点を認め、称え合える対人関係を築けるようご指導いただくことを今後も期待しています。
	6	学校は、児童生徒の 実態把握に基づき、 規律ある態度の指 導の工夫・改善に努 めている。	А	生徒指導委員会や学年会において、児童全体の実態分析を行い、それに基づいた生活目標を設定して指導にあたってきた。月ごとの生活目標については、生徒指導部を中心にあいさつポスターやあいさつ運動等、コロナ禍の中で活動を実施し、あいさつの大切さを伝えた。また、年間生活目標や月ごとの生活目標を、廊下や教室等に継続して掲示することにより、児童が定期的に意識するように工夫をした。	А	・子供たちは朝も元気にあいさつをしてくれます。中にはてれがあるのか、あいさつをかえしてくれない児童もいでちょっと寂しいです。コロナ過だからこそ、あいさつの大切さが児童全体に伝わりさらに元気になってほしいです。 ・マスクで表情が見えづらいので、より意識して挨拶の大切さを伝えるということは良かった。
健康・は	7	児童生徒は、体育の 授業や運動部活動、 外遊び等の運動に 意欲的に取り組んで いる。	А	クラスのレク活動や外遊びを奨励したことで、外で元気よく遊ぶ児童が昨年に比べて増えた。また、運動会や5年生のバスケットボール大会に向けて、クラスや学年で意欲的に授業中や休み時間に活動することができた。また、鉄棒運動やボール運動など、体育の授業をきっかけとして、「運動の生活化」となるように指導や支援をしたことで、運動習慣が身に付いた。		・子供らしく、遊びの中から創意工夫の必要性や人間関係を築く上で大切なことを学んでほしいと願います。 ・下校時に顔や膝に傷を作った児童を何回かみかけた。声をかけると、皆誰もが元気そうで「頑張りすぎた」との返事が返ってきた。運動週間がついている証だろうか。
体力向上	8	学校は、児童生徒の 体力を高めるため、 意図的に向上策を 講じている。	А	新型コロナウイルスによる学校閉鎖に伴う、体力低下を防ぐために、インターネットを利用した動画配信を実施した。本校独自のけやき体操やその場で心拍数を上げる運動等、児童の体力向上のために教職員が子供たち向けに作成した。再生回数は、体力ぐんぐんトレーニングシリーズ1158回、リズムあそび1330回、けやき体操1289回となった。また、学校再開後は、児童の体力向上を目的として、体育の年間計画を再度検討し、計画の再計画した。	Α	・先生方の児童への思いや努力には心より感謝いたします。今のコロナ禍を子供たちは何を見て、どう感じているのでしょうか。大変な時だからこそ、健康であることに感謝し、健康でいることの音絵をしっかりと学んで欲しいと思います。 ・先生方が作成した「けやき体操」や「体力向上を目的とした動画配信」は、多くの児童に元気と「学校に行きたい!」「学校がすき!」と好感で受け止められていたようです。
連携		学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	Α	学校連宮協議金やPIA校員金議寺において、1学校だより」で校長の経営方針や、それに基づく児童の具体的な成長の姿を説明した。また、学校運営協議会の結果を踏まえ、保護者や地域住民に学校の教育活動を理解していただくために、メール配信やホームページ更新する活動をとおして、学校、保護者、地域と協働しながら、学校運営に取り組んだ。また、学校運営協議会の準備会を開催し、より地域の方と熟議を重ね、協働できるよう話し合いを繰り返し実施した。	Α	・校長先生が警接から学校連當協議会の会長やPTA会長に方針を説明するように 等めていることは、協議会の制度の本旨に名沿いますし、開かれた学校にも繋がると 思います。 ・子供たちの成長を願うのは学校も保護者も一緒です。その姿を具体的に説明、発 信いただくとが連携の機になっていくものと確信します。地域住民への教育活動の 理解とそれに準して「何を望むのか。」の視点で明確に依頼することで協力の仕組み ができてくると信じます。 ・学校運営協議会ででた質問などのやりとりを学校だよりなどで質問・回答みたいな 簡単な文章で追記して、もつと保護者などに理解・興味をもってもらえると、より深い 連携につながるとよいと思います。
		保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	Α	地区委員やスクールガード等の見廻り活動では、「買い物に行く途中に」「散歩をしながら」等、「〇〇しながら見守り」を奨励し、児童の安全確保を実施した。また、メール配信により「不審者情報」を配信した際には、児童の安全確保のために、保護者や地域の方が見守りに出てくださる姿が多く見られた。また、新型コロナウイルス感染予防対策の一つとして、地域の方と学校の連名で新型コロナウイルスによる人権的な配慮事項について、保護者宛に文書を発出した。	Α	・学校からの情報提供・発信・具体的な依頼の成果が自発的な行動に繋がっていると確信しています。今後のベースとなるよう、互いに寄り添い、連携していぐ必要性を感じます。 ・コロナウイルス感染症の拡大や見守りをしてくださる地域の方々の高齢化などで不審者情報等の緊急時の対応が手薄になっている。